



創造と挑戦

先進エレクトロニクスで未来を創造する
ソリューションデザインカンパニー

**2022年3月期第2四半期
決算説明会**

萩原電気ホールディングス株式会社
(東証・名証一部 7467)

2021年12月10日

私について

萩原電気ホールディングス株式会社 代表取締役社長 木村守孝（きむらもりたか）



1967年1月生まれ 54歳

1989年4月 萩原電気株式会社 入社

主に民生、産業機器メーカー向け半導体、電子部品販売に従事

1996年 シンガポールに赴任し、当社初めての海外拠点設立

2001年 当社を退社

日本オラクルなど外資系IT企業に勤務

2011年 当社入社 海外統括部海外部長

2018年 萩原エレクトロニクス株式会社取締役就任

2020年 萩原テクノソリューションズ株式会社取締役就任

当社取締役経営企画本部統括就任

2021年 当社代表取締役社長就任

目次

会社紹介

決算のポイント

2022年3月期第2四半期決算概要

2022年3月期業績予想

中期経営計画進捗状況

会社紹介

決算のポイント

2022年3月期第2四半期決算概要

2022年3月期業績予想

中期経営計画進捗状況

会社概要

商号

萩原電気ホールディングス株式会社
(HAGIWARA ELECTRIC HOLDINGS CO.,LTD)

所在地

名古屋市東区東桜二丁目2番1号

代表者

代表取締役会長 岩井 三津雄
代表取締役社長 木村 守孝

創業年月日

1948年3月31日

資本金

43億6,124万円 (2021年3月末時点)

従業員数

594名 (2021年3末日時点)

自動車向け半導体ビジネスと製造業を中心としたお客様向けのデジタルソリューションビジネスを展開

デバイス事業

クルマの先端性を支える半導体ビジネス

- ・クルマの安全で快適な走りを支え、利便性を追求する多彩な車載半導体、電子部品を販売
- ・EV・先進運転支援システムの発展に貢献するソフトウェア開発支援

ソリューション事業

DXで製造現場や社会の課題を解決するソリューションビジネス

- ・IT：ITプラットフォーム、セキュリティ、AI/データ分析、AP開発等の構築による製造現場向けDXソリューションの提供
- ・組込：IoT組込ソリューションの提供（産業用コンピュータ、組込デバイス）産業用コンピュータの設計・製造
- ・計測：車載電装品の製造検査システムの構築
車載電装品の生産ラインにおける搬送装置、各種専用機を含めたトータルソリューションの提供

会社紹介

決算のポイント

2022年3月期第2四半期決算概要

2022年3月期業績予想

中期経営計画進捗状況

決算のポイント

得意先の生産回復により増収増益

今期実績には「収益認識に関する会計基準」適用の影響あり

2021年5月14日発表の業績予想から変更なし

会社紹介

決算のポイント

2022年3月期第2四半期決算概要

2022年3月期業績予想

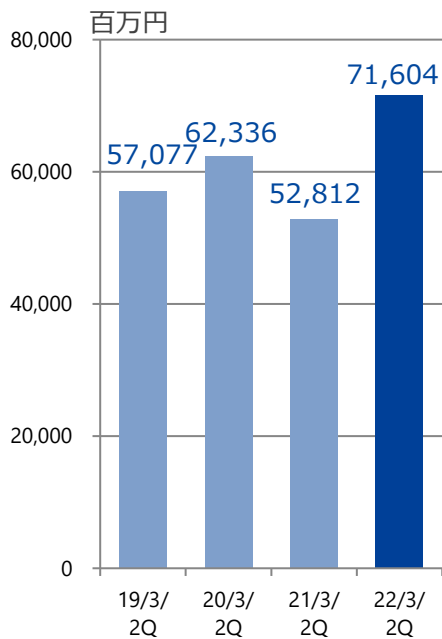
中期経営計画進捗状況

2022年3月期第2四半期決算概要

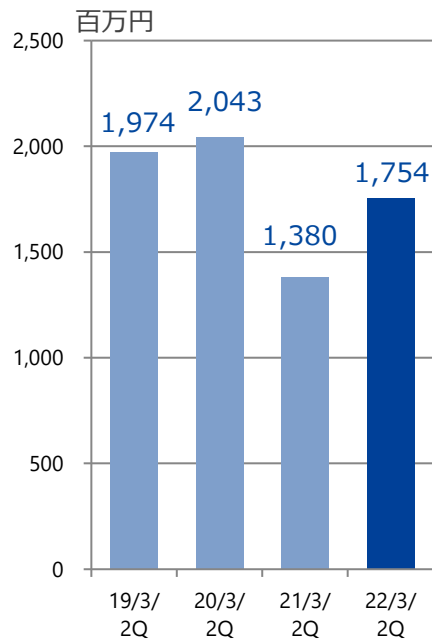
百万円

	2021年3月期2Q		2022年3月期2Q		前期比	
	金額	構成比	金額	構成比		
売上高	52,812	100%	71,604	100%	+18,792	+35.6%
営業利益	1,380	2.6%	1,754	2.5%	+374	+27.1%
経常利益	1,373	2.6%	1,723	2.4%	+349	+25.4%
四半期純利益※	876	1.7%	1,145	1.6%	+268	+30.6%

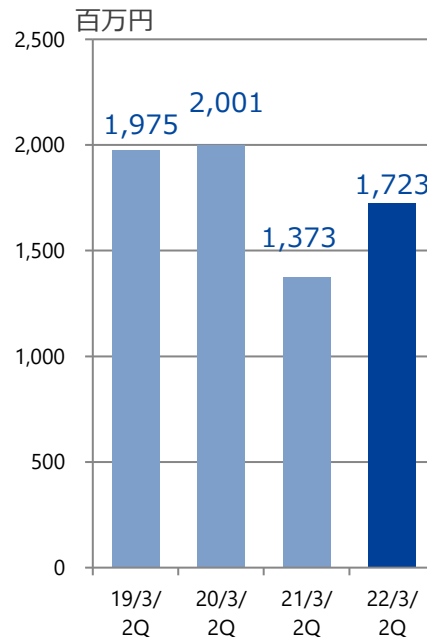
売上高



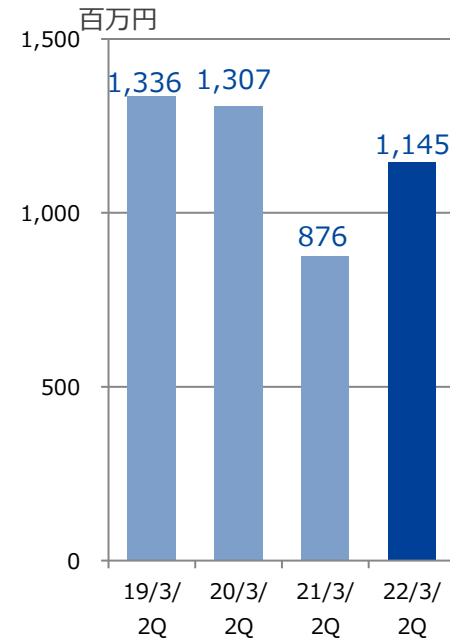
営業利益



経常利益



四半期純利益※



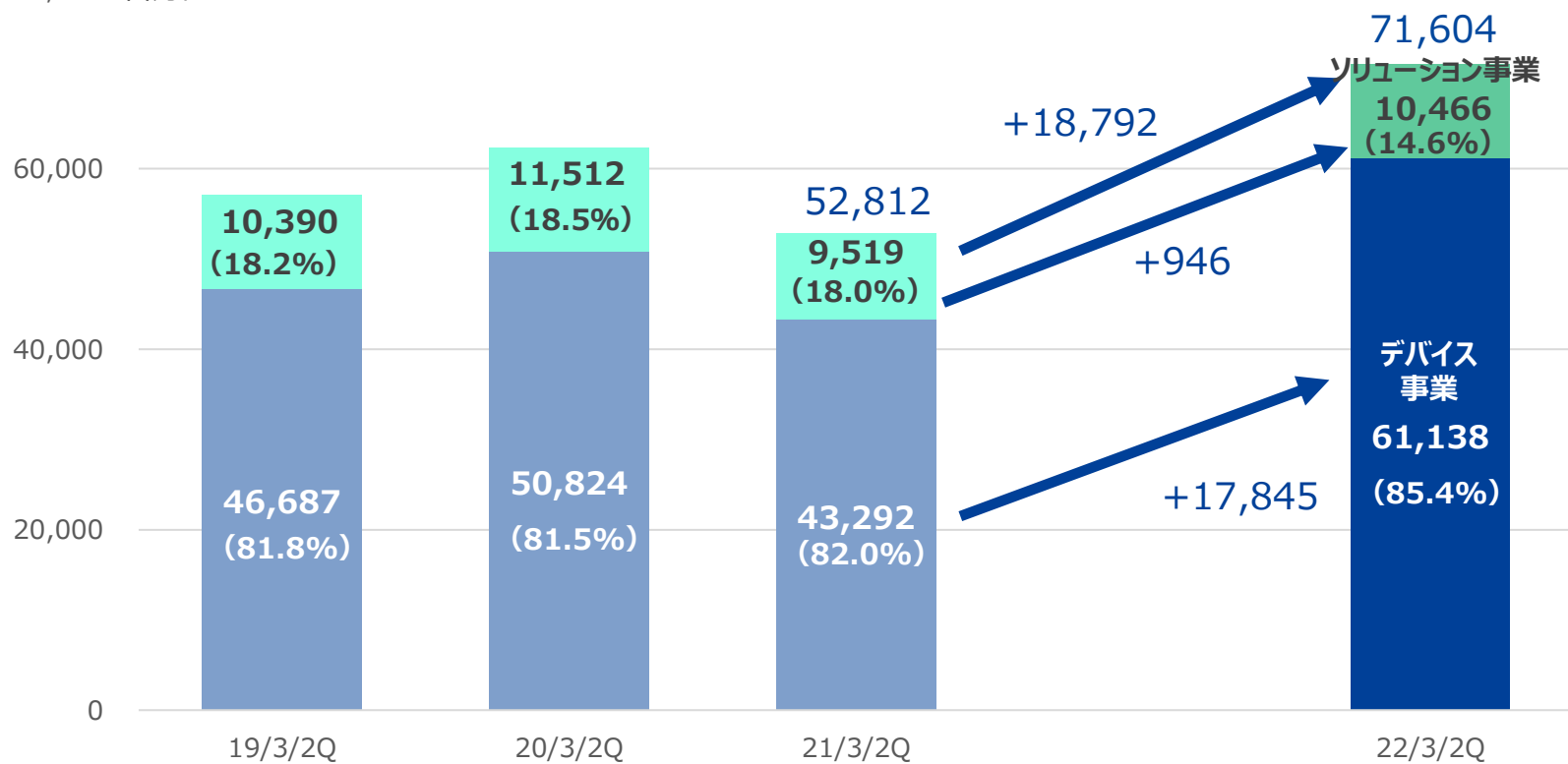
※親会社株主に帰属する四半期純利益

売上高の状況

デバイス事業、ソリューション事業とも増収

セグメント別売上高推移

80,000 百万円



「収益認識に関する会計基準」適用の影響

システムの保守契約等一定期間にわたりサービスを提供することを履行義務とする契約において

(従来) 顧客の検収時点で収益を認識

(今期より) サービス提供期間にわたり定額で収益を認識

売上高影響額

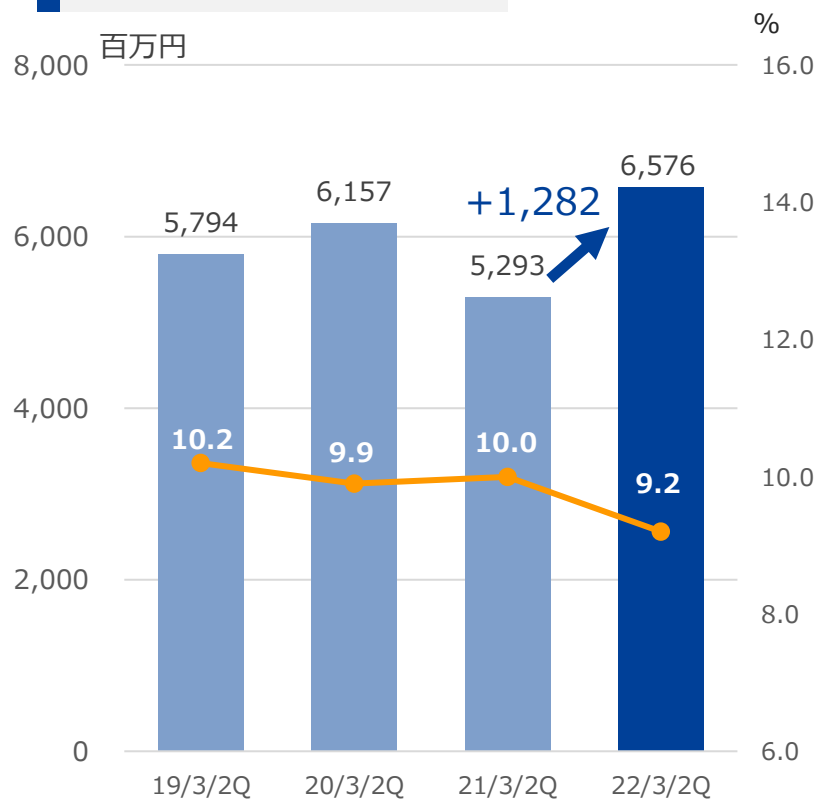
百万円

	2021年3月期 第2四半期	2022年3月期第2四半期				前期比	
		実績	影響	除く影響			
デバイス事業	43,292	61,138	▲12	61,150	+17,857	+41.2%	
ソリューション事業	9,519	10,466	▲462	10,928	+1,409	+14.8%	
合計	52,812	71,604	▲475	72,079	+19,267	+36.5%	

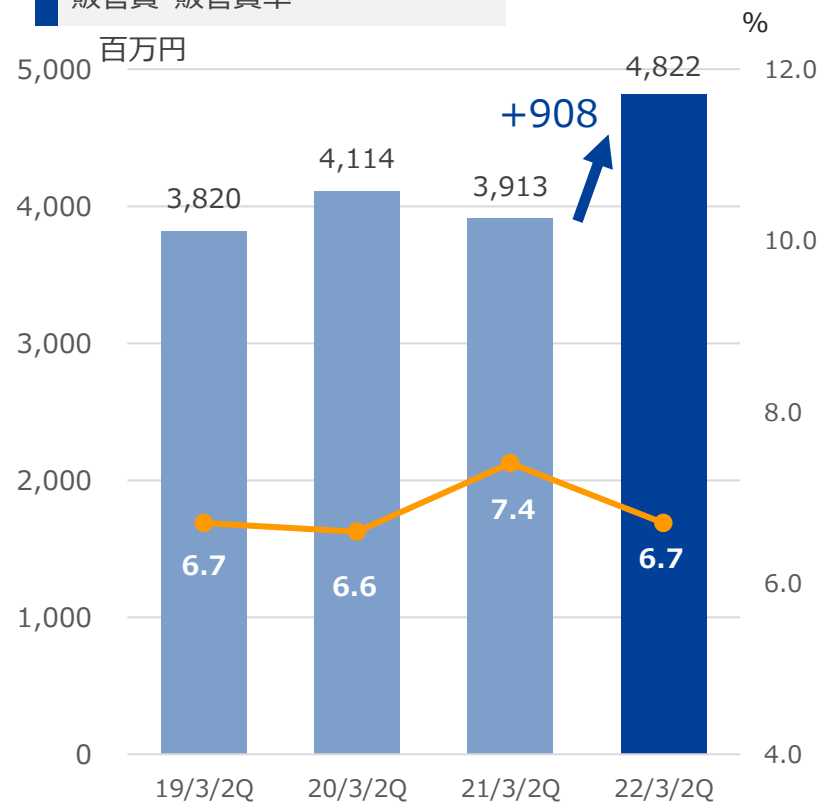
利益の状況

売上総利益の増加が、販管費の増加を上回る

売上総利益・売上総利益率



販管費・販管費率



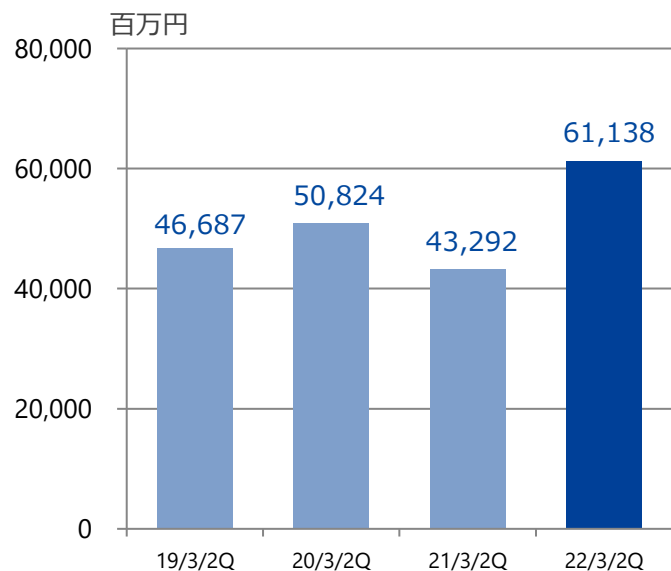
デバイス事業 業績概要

得意先の生産回復により増収増益

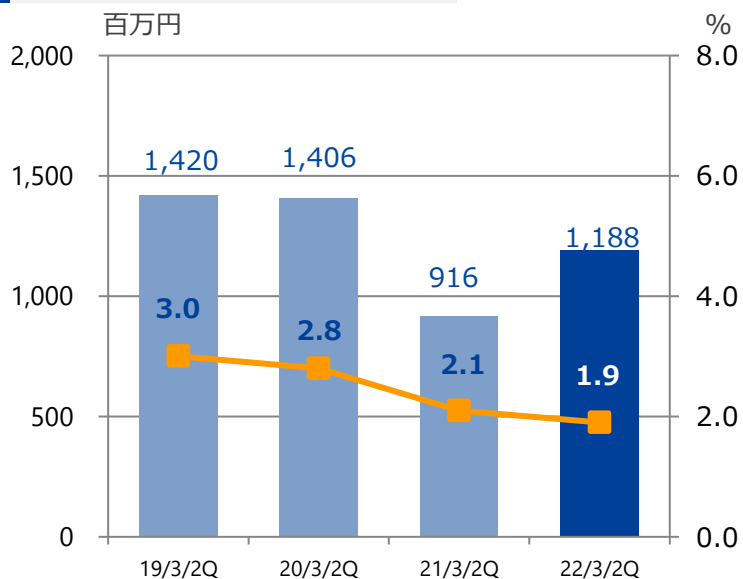
百万円

	2021年3月期第2四半期		2022年3月期第2四半期			(参考) 収益認識 基準変更の影響除く		
	金額	構成比	金額	構成比	前期比			
売上高	43,292	100.0%	61,138	100.0%	+17,845	+41.2%	61,150	+41.2%
セグメント利益	916	2.1%	1,188	1.9%	+271	+29.6%	1,189	+29.8%

売上高

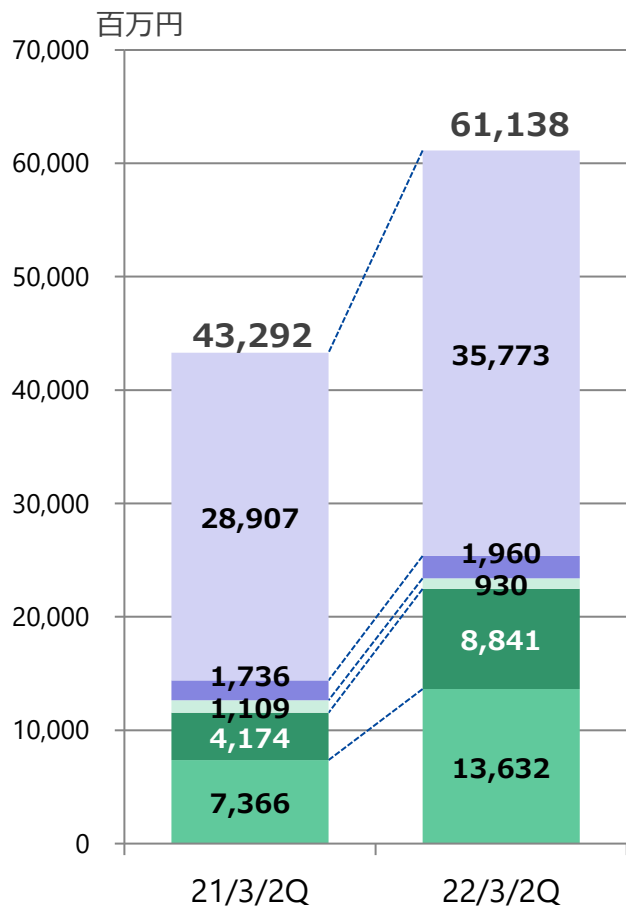


セグメント利益・セグメント利益率



デバイス事業 得意先別売上高前期比較

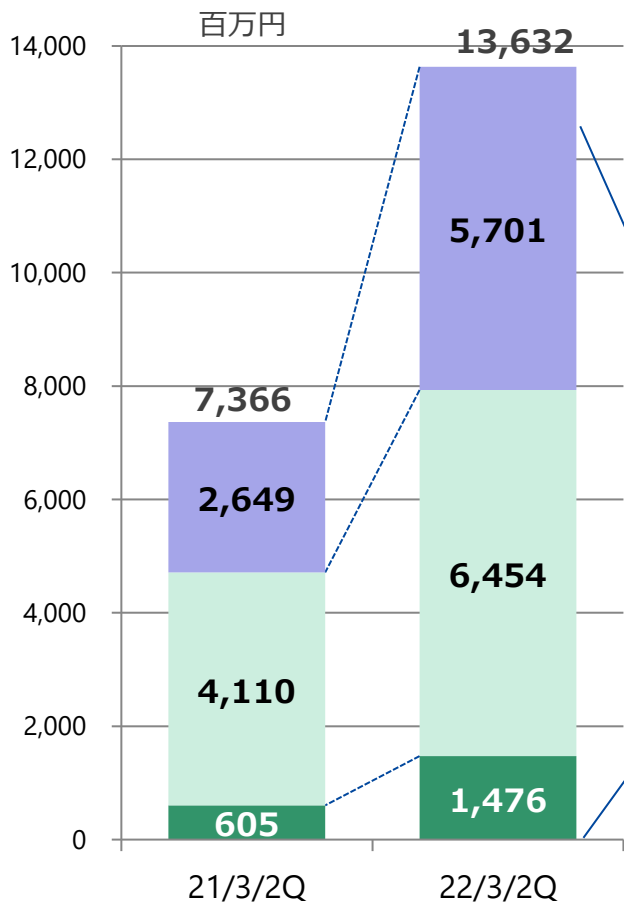
生産回復により主要得意先の売上が増加



	2021年 3月期 第2四半期		2022年 3月期 第2四半期		前期比		(参考) 収益認識 基準変更 の影響除
デンソー	28,907	66.8%	35,773	58.5%	+6,866	+23.8%	35,786
東海理化	1,736	4.0%	1,960	3.2%	+224	+12.9%	1,960
トヨタ自動車	1,109	2.6%	930	1.5%	▲178	▲16.1%	930
その他	4,174	9.6%	8,841	14.5%	+4,666	+111%	8,841
海外拠点 得意先	7,366	17.0%	13,632	22.3%	+6,266	+85.1%	13,632
合計	43,292	-	61,138	-	+17,845	+41.2%	61,150

デバイス事業 海外地域別売上高前期比較

各地域にて売上が増加



	2021年 3月期 第2四半期		2022年 3月期 第2四半期		前期比		(参考) 収益認識 基準変更 の影響除
日本	35,926	83.0%	47,505	77.7%	+11,579	+32.2%	47,518
アジア	2,649	6.1%	5,701	9.3%	+3,051	+115%	5,701
アメリカ	4,110	9.5%	6,454	10.6%	+2,343	+57.0%	6,454
欧州	605	1.4%	1,476	2.4%	+871	+143%	1,476
海外計	7,366	17.0%	13,632	22.3%	+6,266	+85.1%	13,632
合計	43,292	-	61,138	-	+17,845	+41.2%	61,150

※地域名は拠点の所在地域（グループ内取引は除く）

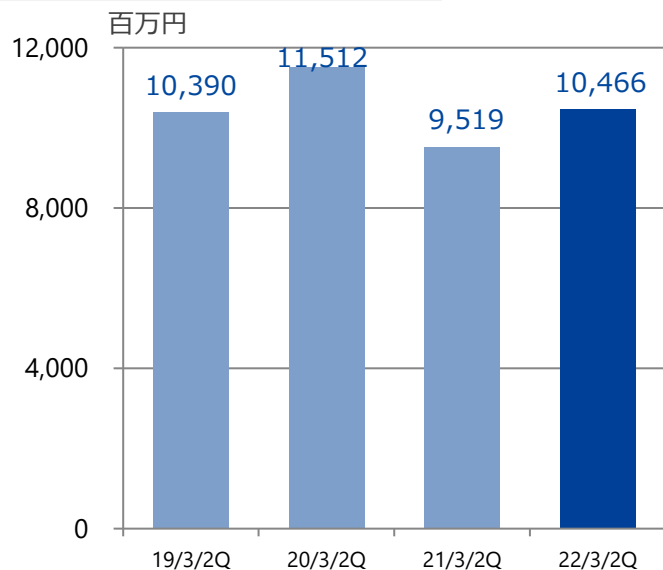
ソリューション事業 業績概要

新型コロナウイルス感染症の影響からの回復により増収増益

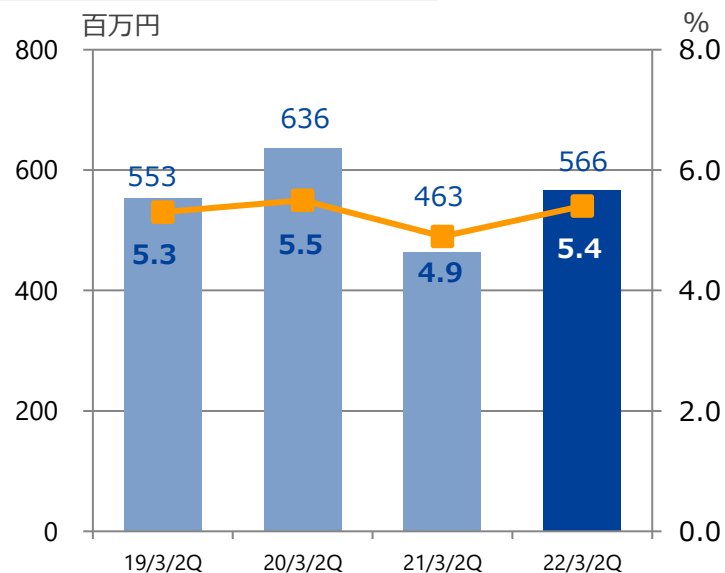
百万円

	2021年3月期第2四半期		2022年3月期第2四半期			(参考) 収益認識 基準変更の影響除く	
	金額	構成比	金額	構成比	前期比		
売上高	9,519	100.0%	10,466	100.0%	+946 +9.9%	10,928	+14.8%
セグメント利益	463	4.9%	566	5.4%	+102 +22.2%	598	+29.2%

売上高

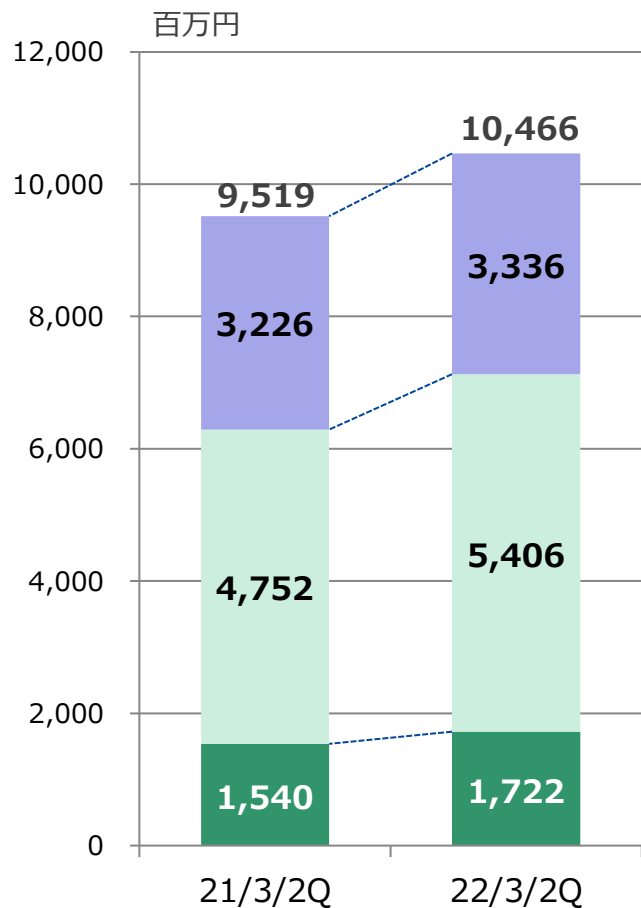


セグメント利益・セグメント利益率



ソリューション事業 事業別売上高前期比較

組込、計測が大きく増加

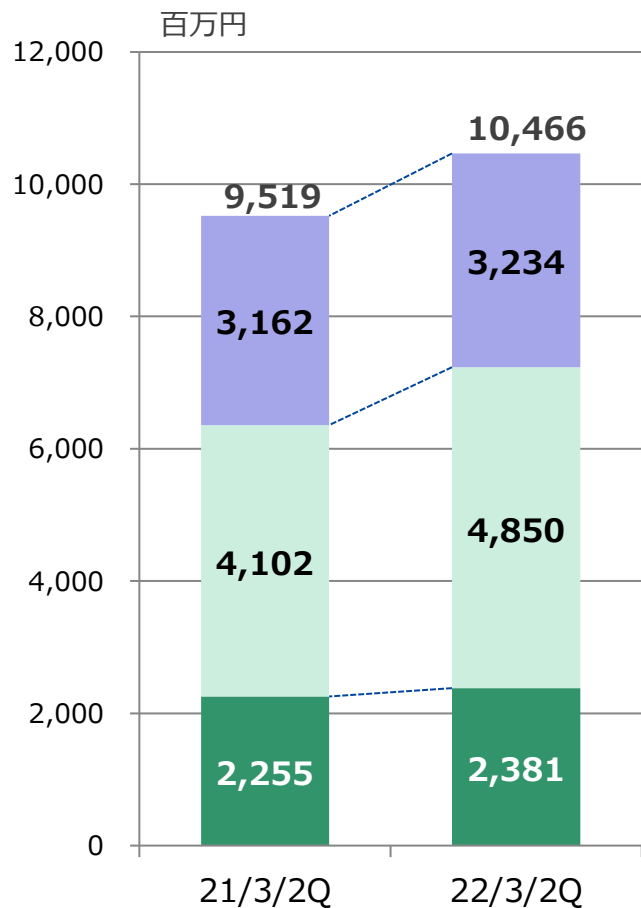


	2021年 3月期 第2四半期		2022年 3月期 第2四半期		前期比		(参考) 収益認識 基準変更 の影響除
IT	3,226	33.9%	3,336	31.9%	+109	+3.4%	3,558
組込	4,752	49.9%	5,406	51.7%	+654	+13.8%	5,586
計測	1,540	16.2%	1,722	16.5%	+182	+11.9%	1,783
合計	9,519	-	10,466	-	+946	+9.9%	10,928

百万円

ソリューション事業 業種別売上高前期比較

産業機器が大きく増加



	2021年 3月期 第2四半期		2022年 3月期 第2四半期		前期比		(参考) 収益認識 基準変更 の影響除
自動車	3,162	33.2%	3,234	30.9%	+71	+2.3%	3,549
産業 機器	4,102	43.1%	4,850	46.3%	+747	+18.2%	4,931
その他	2,255	23.7%	2,381	22.8%	+126	+5.6%	2,447
合計	9,519	-	10,466	-	+946	+9.9%	10,928

百万円

会社紹介

決算のポイント

2022年3月期第2四半期決算概要

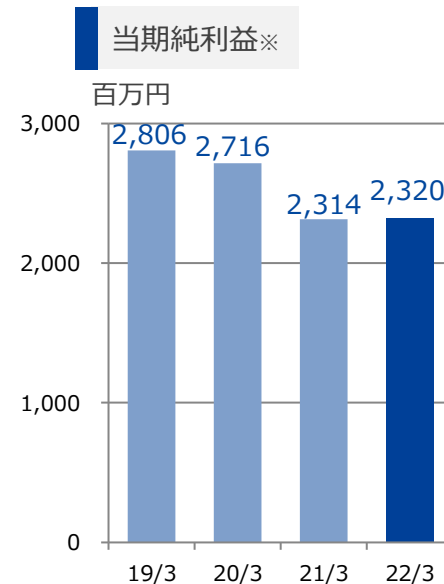
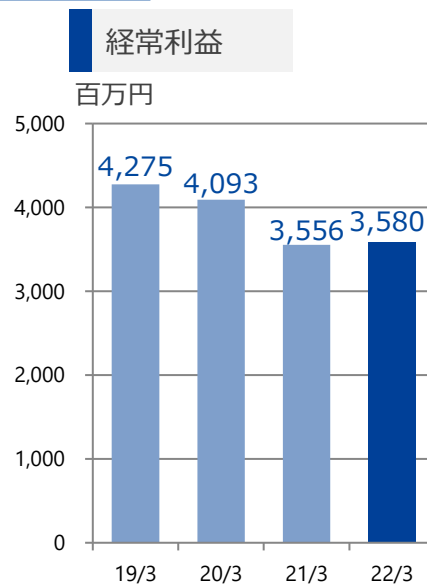
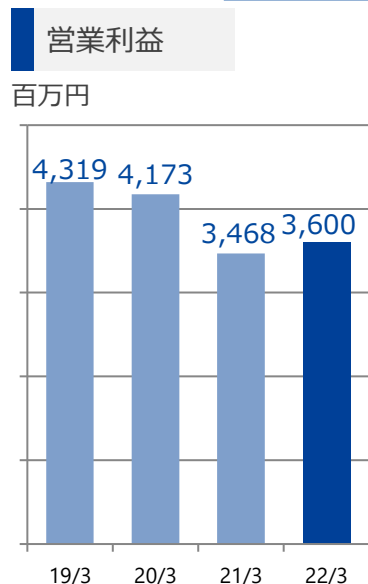
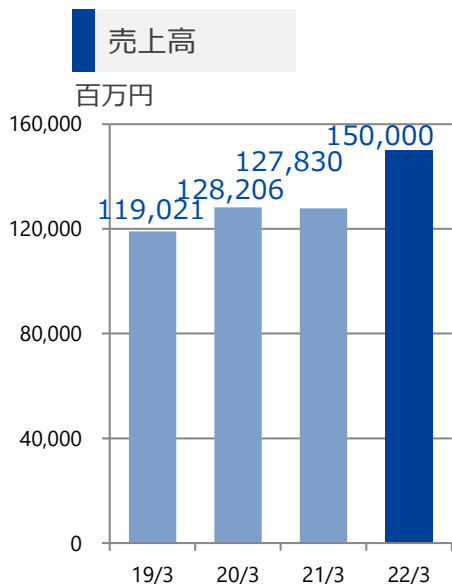
2022年3月期業績予想

中期経営計画進捗状況

2022年3月期業績予想

2021年5月14日発表の業績予想から変更なし

	2021年3月期	2022年3月期		百万円
	通期	通期	前期比	
売上高	127,830	150,000	+22,169	+17.3%
営業利益	3,468	3,600	+131	+3.8%
経常利益	3,556	3,580	+23	+0.7%
当期純利益※	2,314	2,320	+5	+0.2%



※親会社株主に帰属する当期純利益

株主還元

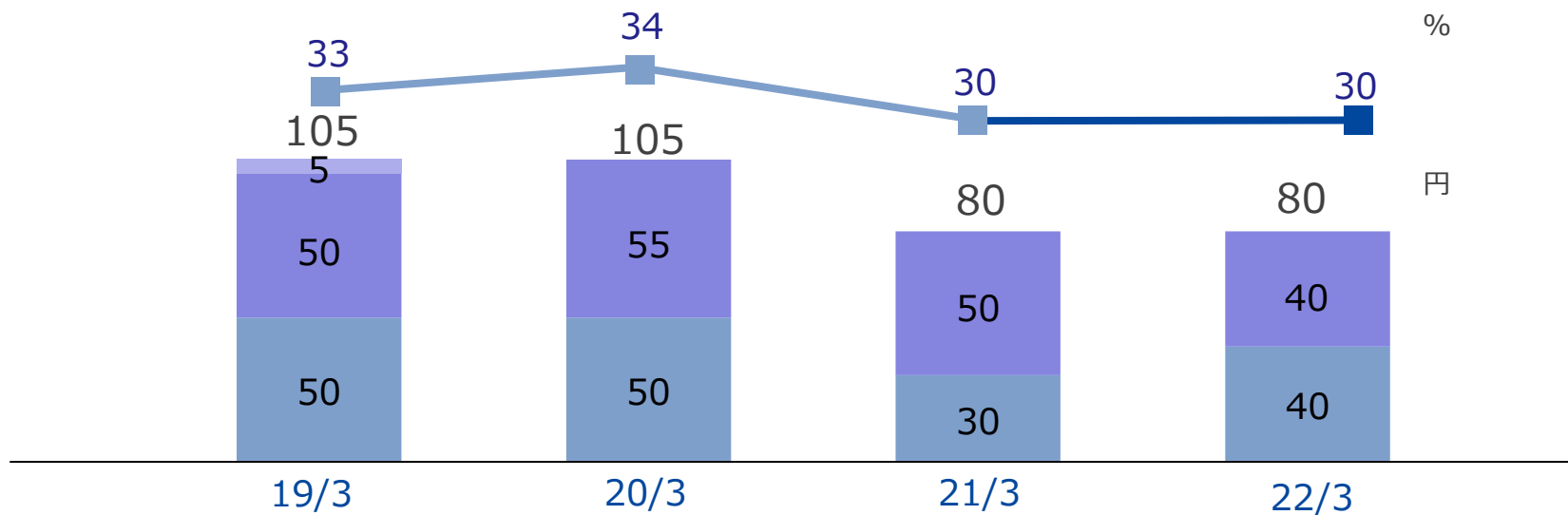
2022年3月期年間配当80円（予定）

基本的な配当方針

連結配当性向30%を目途とし連結純資産配当率も勘案したうえで、安定配当をベースに業績に応じた利益配当を行う

1株あたり年間配当金額と配当性向

中間期 ■ 期末 ■ 記念配当



会社紹介

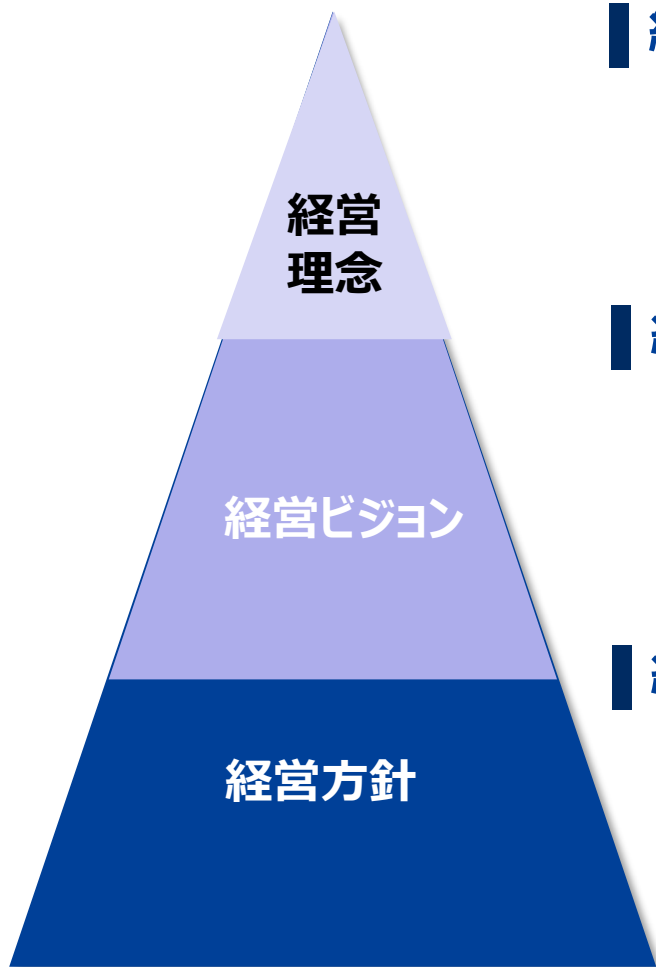
決算のポイント

2022年3月期第2四半期決算概要

2022年3月期業績予想

中期経営計画進捗状況

経営ビジョンと経営方針



経営理念

創造と挑戦

創造: 全従業員が変化に適応し、新たな価値を創造し続ける

挑戦: 全従業員が現状に満足することなく、更なる成長に挑戦し続ける

経営ビジョン

先進エレクトロニクスで未来を創造する

ソリューションデザインカンパニー

『モビリティ社会』の未来と、『製造業のものづくり』の未来に対して、デジタルトランスフォーメーションで新しい価値をデザインし、持続可能な社会に貢献する企業グループを目指します。

経営方針

SDGs/ESG経営を推進、企業価値を向上させる

- ・コア事業の拡大により強固で持続的な成長を目指す
- ・新高付加価値事業の創出で収益性向上を目指す
- ・ヒトと組織とシステムの高度化によって事業基盤強化を目指す
- ・企業価値の向上によりステークホルダーから信頼され選ばれる企業グループを目指す

イノベーションによる価値創造と経営基盤強化により、企業価値を最大化

～SoCビジネスとソフトウェア・エンジニアリング・サービスによる価値提供～



モビリティ社会の発展に貢献する
エレクトロニクスカンパニー

～DXファクトリー統合サービス市場での価値提供～



ものづくりを支える
エンジニアリングパートナー

～DX業務改革～



経営の高度化
と効率化

～企業変革～



ビジネスイノベーションによる
収益性の高い事業ポートフォリオを創出

～計数計画～



売上高	1,700億円
営業利益	50億円
ROE	8%

～従業員エンゲージメントの推進～



ビジョンを共有、従業員と
二人三脚で未来を創造

～企業価値の向上～



ステークホルダーの
信頼性と評価向上

～SDGs/ESG経営の推進～



社会課題の解決
への貢献

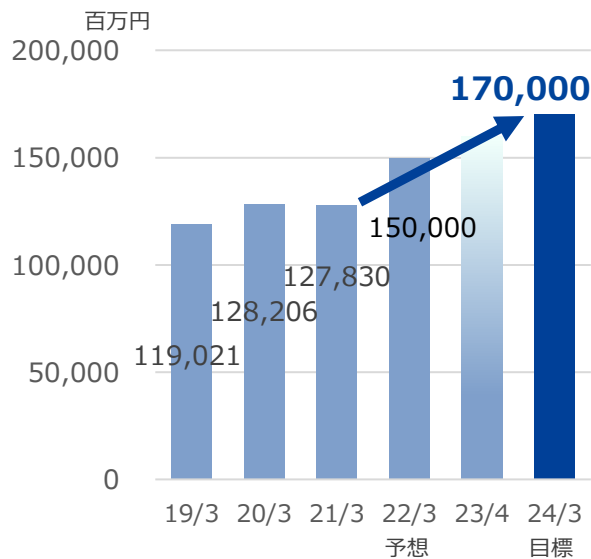
中期経営計画 Make New Value 2023

数値目標

売上高

FY23 1,700億円

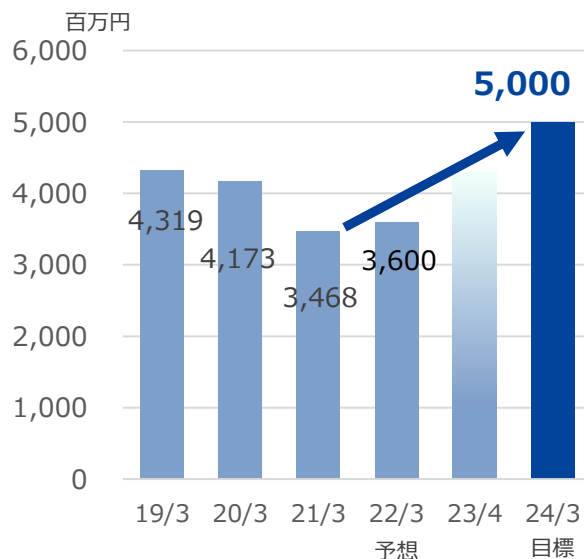
- ・成長基調を継続
- ・コア事業での着実な伸長



営業利益

FY23 50億円

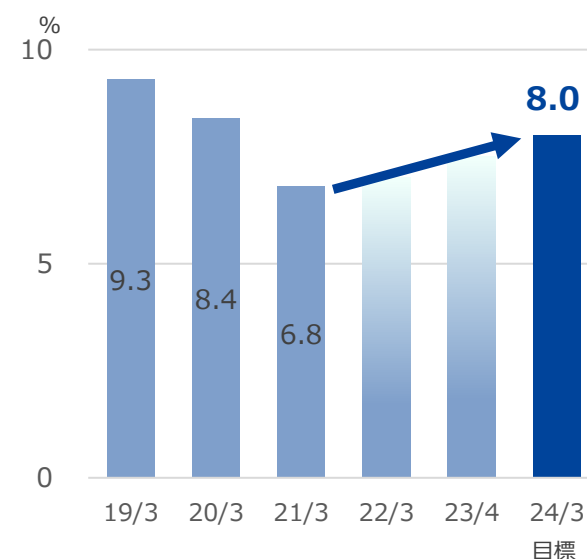
- ・競争激化など厳しい環境が続くが、高付加価値事業創出などによる営業利益率の確保



ROE

FY23 8.0%

- ・コア事業の利益率維持、向上
- ・高付加価値事業創出への投資
- ・業務効率の改善



重点戦略：4つの重点施策を推進

	①-1 デバイス事業	①-2 ソリューション事業
① コア事業拡大	[注力事業拡大] <ul style="list-style-type: none">● 車載SoC事業拡大● ソフトウェア・エンジニアリング確立	[注力事業拡大] <ul style="list-style-type: none">● DXファクトリー統合サービス市場での価値提供
② 新高付加価値事業創出	①-3 グローバルビジネス拡大	
③ 事業基盤強化	<ul style="list-style-type: none">● ビジネスイノベーション企画推進活動● エンジニアリングビジネス強化	
④ 企業価値向上	<ul style="list-style-type: none">● 全社プロジェクト活動によるDX推進 ↳ サプライチェーンマネジメント改革● プロフェッショナル人材育成● 従業員エンゲージメント向上● グループ運営の最適化追求	
	<ul style="list-style-type: none">● SDGs/ESG経営推進● 資本政策/財務戦略強化● ステークホルダーエンゲージメント充実	

中期経営計画進捗概要

コア事業拡大 デバイス事業

- ◆ 車載SoC事業拡大/ソフトウェア・エンジニアリング確立
 - ・機能別組織体制の構築→業務品質向上と効率化
 - ・ソフトウェア・エンジニアリングビジネス領域拡大
自社オリジナル製品販売開始、新製品開発中
Vehicle OSに対する取り組み開始

コア事業拡大 ソリューション事業

- ◆ DXファクトリー統合サービス市場での価値提供
 - ・当社の強みであるITとOTの知見を活かした3事業（IT、組込、計測）融合サービスを整備
 - ・DX領域での簡易アセスメントサービスの開始
 - ・ITサービス戦略の設計着手（SaaSビジネスの拡大）

グローバルビジネス拡大

- ・MaaS活用可能な技術をもつ米国スタートアップSheeva.AI社へ出資
- ・ソリューション事業における中国ビジネス立ち上がり

中期経営計画進捗概要

■ 新高付加価値ビジネス創出

- ・イノベーション企画推進Gを組織化し、グループ会社横断で探索を開始
- ・建設機械・産業車両向けに当社画像技術を活用したオリジナルソリューションを提供開始

■ 事業基盤強化

- ・社内DXプロジェクトの発足
- ・在宅勤務制度推進、スーパーフレックス制度導入
- ・人事関連システムの多機能化
- ・健康管理システム導入
- ・各事業会社にて、SFAを導入

■ 企業価値向上

- ・ホームページにサステナビリティサイト開設
マテリアリティの決定

ソフトウェア・エンジニアリング

◆PoC開発支援

- ・PoC開発受託専門チーム活発化
- ・PoC開発をはじめとするお客様の開発を支援する自社製品販売開始
→自社技術を活かしたオリジナル製品を引き続き開発中



CAN-FDドライバボード

- ・MCU/SoC汎用ボードのCANトランシーバに依存することなく
安定した伝送路でドライバソフトの先行開発を可能に

◆AUTOSAR関連、MBD関連拡大

- ・AUTOSAR Classic、AUTOSAR Adaptive、AUTOSAR OS用ドライバ
- ・デバイス技術とMBD技術を活用し、SoCソフトウェア開発領域でのMBD、仮想環境シミュレーション環境活用を支援

◆Vehicle OSに対する取り組み開始

- ・SoCを軸とした開発環境構築の支援活動中
- ・Vehicle OSに関連したソフトウェアビジネスの開始

DXファクトリー統合サービス市場での価値提供

当社のDXファクトリーサービスを具体化

・ITとOT両方の知見をもつ当社だからこそその付加価値を提供

IT/OT関連部門を対象とした業務棚卸し 工場アセスメントサービス



アセスメント結果から デジタル化の恩恵を最大化するため DX化ロードマップ作成支援



ロードマップ作成後のRFP作成～受託開発まで対応可能

工場アセスメントサービス

解決すべき課題を明らかにする

- 放置できない脅威
- これさえ解決できれば突破できること
- 是非とも実現したいこと etc...

DX化ロードマップ作成支援

課題を解決するための戦略を描く

- 課題の原因と解決方法についての仮説
- 解決方法に至る総合的な物語
- 事業への影響や効果 etc...

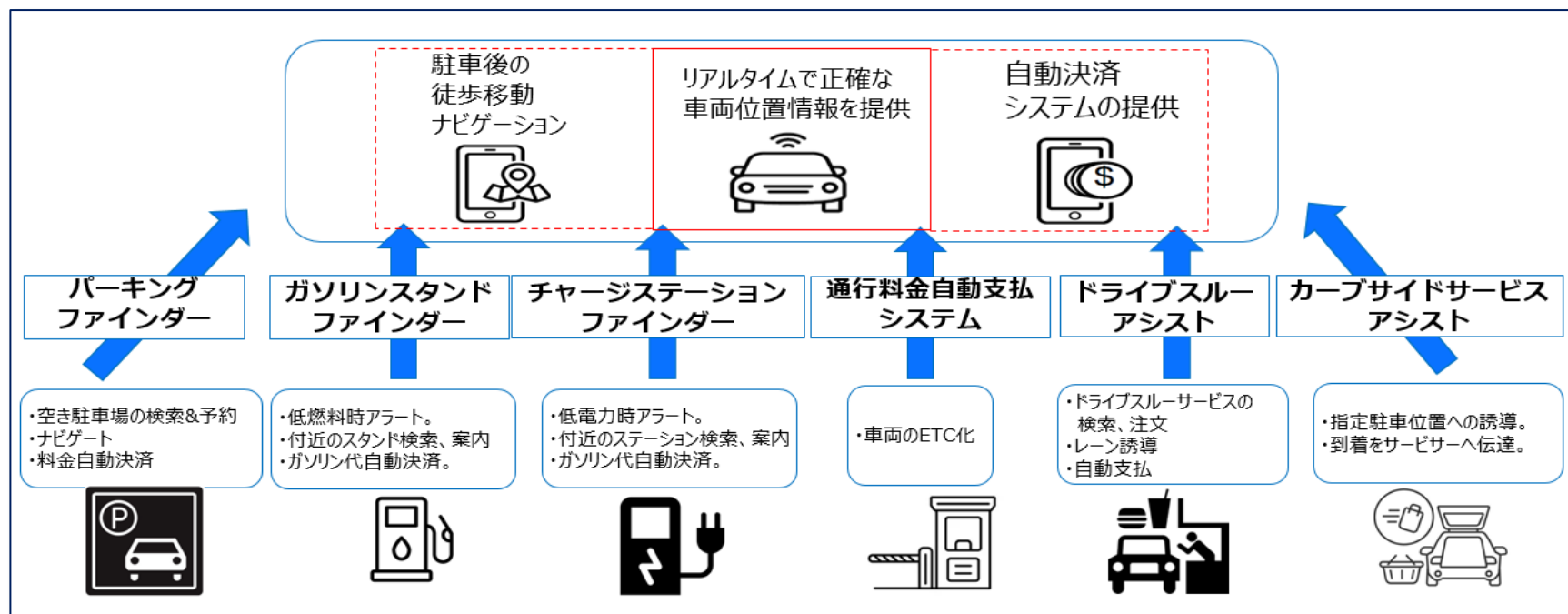
戦略を実践するための手段を組む

- ビジネスモデルとビジネスプロセス
- 組織や体制、業績評価基準や報酬制度
- 技術やITサービス、製品 etc...

MaaS活用可能な技術を持つ米国Sheeva.AI社へ出資

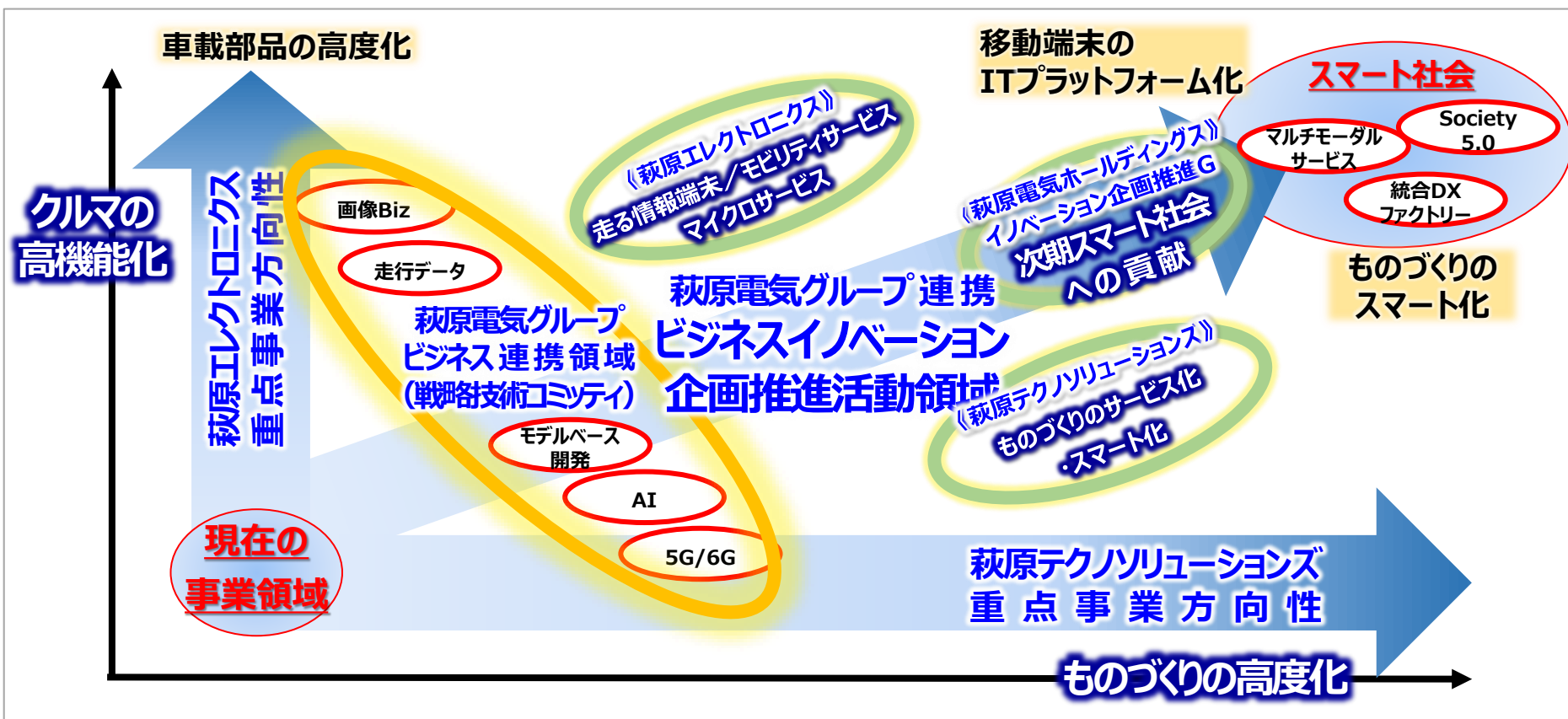
- ・位置情報高精度化ソフトウェアのECU組込を提案
- ・将来的には、駐車予約や決済など高精度位置情報を活用した新しいサービスを開発し、MaaS関連市場への参入を狙う

高精度位置情報は活用の幅が広い



ビジネスイノベーション推進活動

イノベーション企画推進Gを組織化し、グループ会社横断で探索を開始



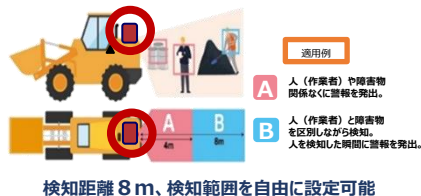
ビジネスイノベーション推進活動

高精度AIカメラシステム

建設機械やフォークリフトの「人」と「モノ」を検知、接触事故の防止に貢献。

<産業車両用 人・モノ検知システム>

- ・高精度・高感度AIカメラシステムにより、様々な姿勢の「人」を高速検知。
- ・暗所や狭い室内でも、人・モノを高速・高精度で判別。
- ・自動校正機能搭載で、経年劣化に対応、ヘビーデューティー仕様にも対応。



<作業範囲内人検知AIモニタリングシステム>

- ・デジタルサウンドとAIでモニタリング、高速・高精度で人を検知して警告。
- ・上空からの視点でデジタルカメラのクリアな映像をリアルタイムに出力。
- ・高速・高精度AIで5m以内の人・モノを見分ける。

サウンド&AI

デジタルサウンド映像で、5m範囲内の「人」を検知

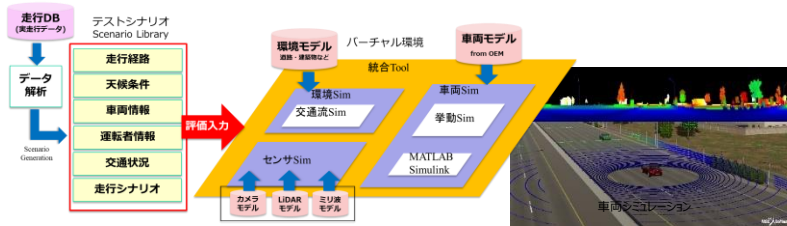


自動運転評価システム

自動運転開発の評価に必要な高品質な走行テスト・検証データを提供。

<バーチャルデータ活用開発>

- ・実データから高品質な評価シナリオデータを生成し提供。
- ・収集困難なシナリオ生成でヒヤリハット/センサ評価を支援。



<リアルデータ活用支援>

- ・計測車両で収集した走行データおよび認識正解データを提供。
- ・学習・評価用の走行データ提供により画像認識評価を支援。
- ・不規則な形状の対象物を明瞭に検出。



当社ホームページにサステナビリティサイトを開設



新たな価値への「創造と挑戦」を、
「社会・地球の持続的な発展」の原動力に。

持続可能性の向上に対する企業の取り組みに期待と注目が集まり、企業の社会への適応力がますます求められています。

萩原電気グループは「創造と挑戦」という理念のもと、中長期視点での事業活動の推進と社会適応力の向上によるサステナビリティ経営を推進していきます。

SDGsやESG（環境・社会・ガバナンス）の意識を高めながら、新たな価値の創造に努め、優れた商品・製品やサービスを社会に提供し、企業成長の実現と社会の持続的成長に貢献し、社会から必要とされる存在であるよう努めています。

安心・安全・快適な自動車社会実現への貢献

デバイス事業

- ・電動化や自動運転に関わる高度なエレクトロニクス技術を実装した電子デバイスの販売活動
- ・高度化・複雑化する車載組込ソフトウェアの検証や開発支援

ソリューション事業

- ・多機能で複雑化する自動車の試作や量産工程の強化など、計測領域での完成車メーカー様への工程支援

FY2021-2023推進活動

- 車載半導体ビジネスの拡大
- ADAS/自動運転システム開発企業向け走行データサービス
- 新興国や途上国における事業推進
- 性能評価・機能評価システムの強化支援
- 海外への生産・検査設備の展開とデータ一元化支援



事業基盤やパートナーシップを活かした新規領域や新事業へのチャレンジ

デバイス事業

- 得意とする画像技術とAIを応用し、建機の安全性向上に貢献する製品提供
- 車載ビジネスで培ったノウハウを応用し、産業の活性化や社会課題の解決にアプローチ

ソリューション事業

- SI領域とFA領域を融合した先端IT技術による新たなサービスの創出やモノづくりにおけるDXビジネスの推進

FY2021-2023推進活動

- 画像処理技術による新規分野拡大
- 海外の製造業の技術発展支援、生産現場IT化促進による生産性向上
- DXビジネス推進
- データ分析ソリューション普及促進
- 最新技術を活用した自動化ソリューション



出典元：エウレカ株式会社PVより

SDGs/ESG経営の推進～社会貢献活動

障がい者雇用創出農園活動



ソーシャルファームの企業向け貸し農園サービスを活用した屋外農園を運営し、障害のある方が長期的に安心して就業できる環境を整備しています。収穫した野菜はフードバンク団体への寄付などの社会貢献にもつながっています。

母子保健活動支援

(ピープルズ・ホープ・ジャパン賛助会員)



ソーラーパネル発電による売電収入の寄付

社内設置自動販売機の売上寄付



スポーツ振興 (グランパスエイト後援会)

青少年育成寄付 (豊田少年少女発明クラブ)

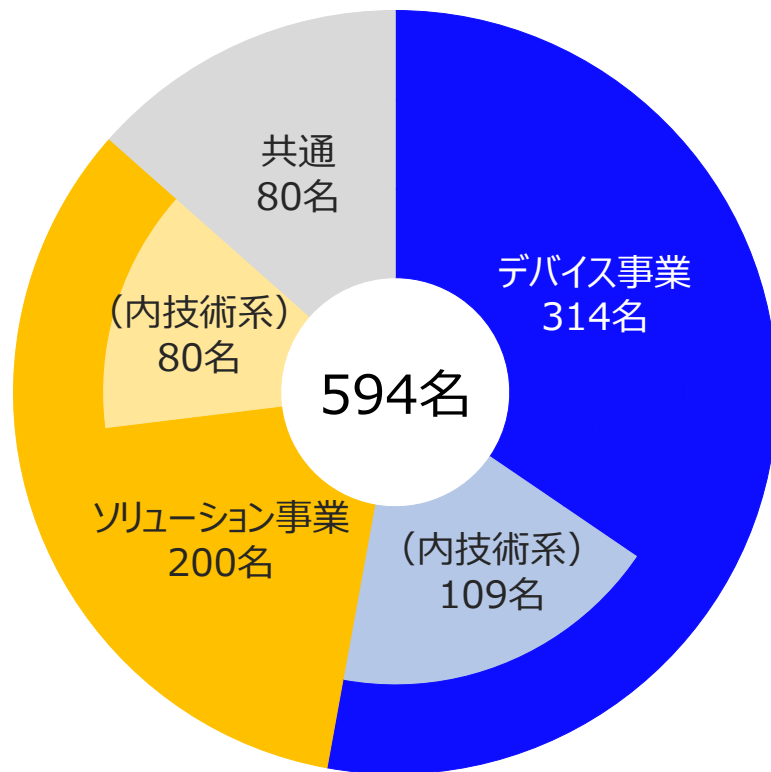
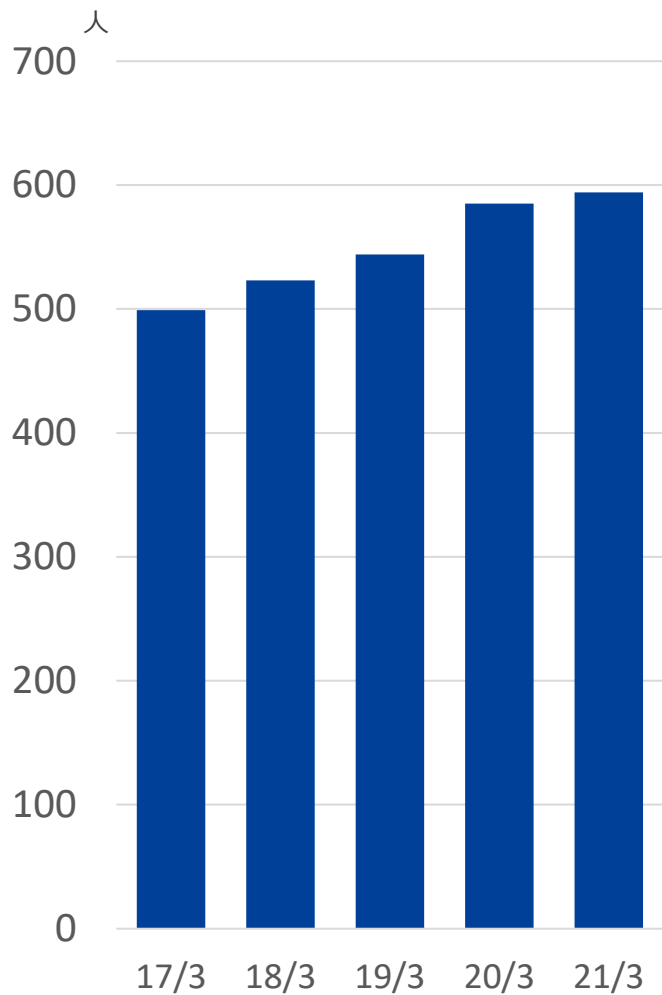
能楽振興

(NPO名古屋能楽振興協会賛助会員)



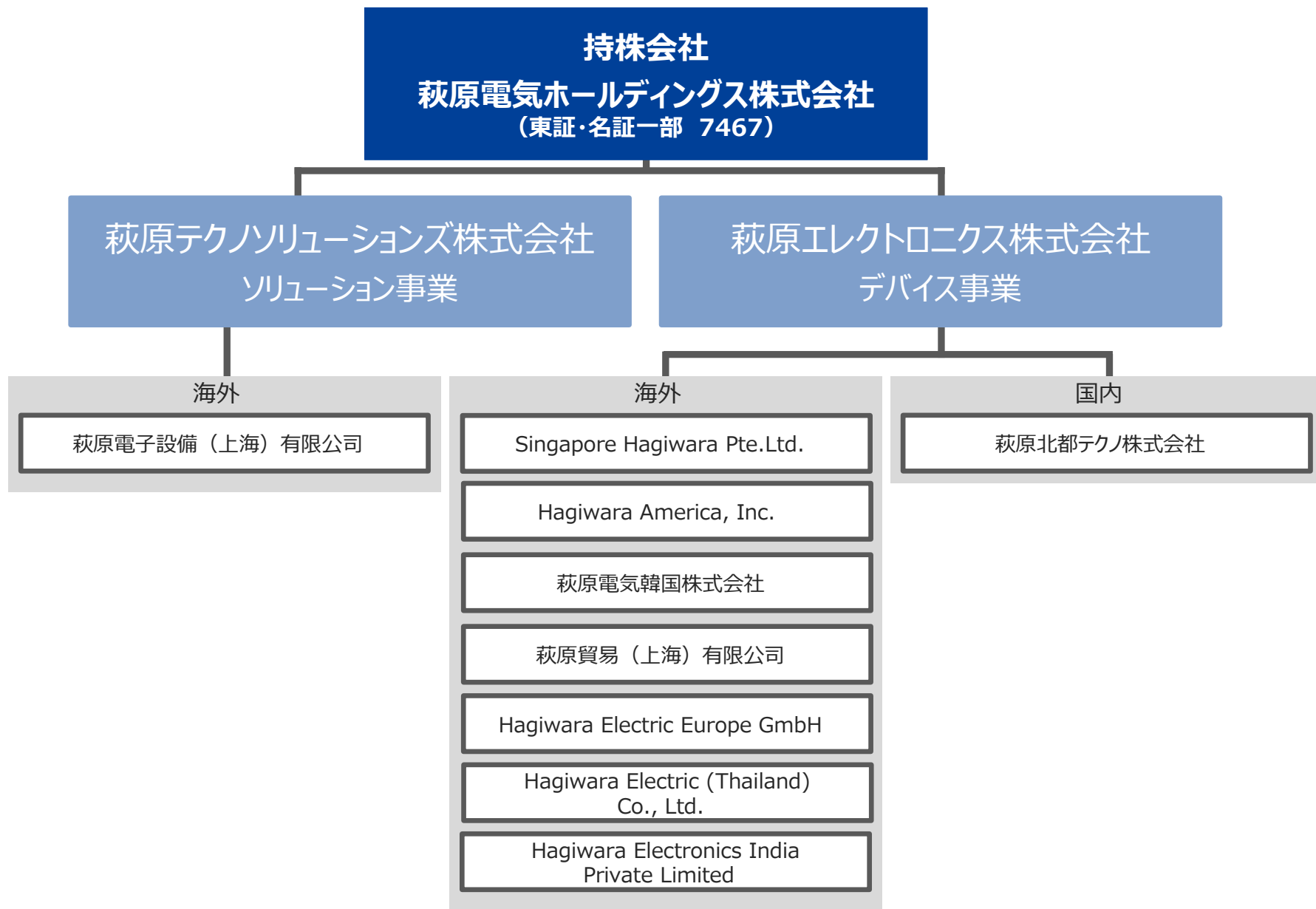
補足

人員の構成



2021年3月末現在
(臨時従業員は除く)

体制図





創造と挑戦

先進エレクトロニクスで未来を創造する
ソリューションデザインカンパニー

引き続きご支援ご鞭撻を
よろしくお願い申し上げます

本資料のうち、業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基き当社で判断したものであります。
予想には様々な不確定要素が内在しており、実際の業績はこれらの予想数値と異なる場合があります。

用語集

P.5	DX	Digital Transformation 将来の成長、競争力強化のために、新たなデジタル技術を活用して新たなビジネス・モデルを創出・柔軟に改変すること
P.23	SDGs	Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標) 2015年の国連サミットで採択された2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標。17ゴール・169のターゲットから構成される。
P.23	ESG	Environment(環境)、Social(社会)、Governance(ガバナンス)
P.23	SoC	System-on-a-chip 1個の半導体チップ上にシステムの動作に必要な機能の多く、あるいはすべてを実装した集積回路
P.24	VehicleOS	パソコンの基本ソフト(OS)に相当する自動車搭載用標準ソフトウェア
P.24	OT	Operational Technology(運用・制御技術) モノやコトの状態を監視・制御するための技術
P.24	MaaS	Mobility as a Service モノの移動を自動車を含むモビリティを利用して最適化して提供する「移動のサービス化」
P.25	SFA	Sales Force Automation(営業支援システム) 営業活動における情報全般をデータ化し、蓄積・分析することができるシステム
P.26	PoC	Proof of Concept 概念実証。新しい概念や理論、原理、アイデアの実証を目的とした検証やデモンストレーション
P.26	CAN-FD	CAN with Flexible Data Rate CANのプロトコル仕様を拡張し、より大容量のデータを高速に通信するための通信プロトコル
P.26	MUC	Micro Controller Unit(マイコン) CPUを搭載し、メモリなどを一つのチップにまとめたもの
P.26	AUTOSAR	Automotive Open System Architecture 欧州自動車メーカーを中心に、車載ソフトウェアの共通化を目指して設立された団体。 また、車載ソフトウェアの共通化を実現するためのプラットフォームの仕様の名称
P.26	MBD	Model Based Development(モデルベース開発) コンピュータ上で数式によって再現したモデルを用いることで、検証を行いながら設計開発を行う手法